

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年10月26日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者等 「第2回揖斐地域就農支援協議会」を開催

10月2日、揖斐地域就農支援協議会は第2回就農支援会議を開催し、新規就農者の就農状況面談結果や認定農業者への移行状況、就農相談状況について情報共有を行い、課題について協議した。

肥料や燃料の価格高騰や異常気象が続く中、計画した経営が行えていない新規就農者が多く、関係機関による農業者に寄り添う支援の必要性を再認識した。引き続きサポートチームで農業者一人一人の状況にあわせた伴走支援を行っていく。



【会議の様子】

■夏秋なす 帰農塾修了式

5月から行ってきた夏秋なす帰農塾も10月21日をもって最終回となった。今回は、栽培の反省及び次年度の作付け計画・ほ場準備について、農業普及課から講義を行った。また栽培終盤のほ場の現地視察も行った。修了式では夏秋なす組合長から一人ずつに修了証を手渡され、激励の言葉を贈られた。帰農塾の参加者から1名が新たに組合に加入し、仲間となった。

農業普及課では、引き続き塾生の掘り起こしと新組合員の伴走支援を行っていく。



【修了式の様子】

■直売所の品目拡大 野菜栽培講習会の開催

10月17日、直売所の出荷者や品目の拡大に向けた野菜栽培研修会をJAいび川担い手サポートセンターで開催し、20名が参加した。講習会は農業普及課から「土づくりのポイント」と題して、有機物の施用やほうれんそうの栽培の基本等について説明を行った。出席者からは積極的に質問もあり、熱心さが窺われた。

農業普及課では、今後も直売所の出荷拡大に向けて、継続的支援を行っていく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 3町合同研修会の開催

10月26日、3町のいちご生産組織が合同で、いちごの適切な管理を行うための研修会をJAいび川担い手サポートセンターにて開催した。研修会では、農業普及課から花芽検鏡の結果と今後の栽培管理に向けて説明を行った。また、農業共済や資材メーカー等から情報提供等があり、揖斐地域の組合同士の連携を深める良い機会になった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、技術支援を継続していく。



■ 水稲 実証ほ場の成熟期調査を実施

10月3日、揖斐川町、大野町、池田町の水稲実証ほ場で、収穫前の成熟期における生育調査をJA等関係者とともに行った。実証ほ場は、環境へ配慮したプラスチック排出抑制肥料の実証、ハツシモの良食味栽培、飼料用の多収性品種の実証を生産者の協力を得て行っており、今後の収量や品質の調査結果をふまえて、地域の栽培指針に活用していく。



【生育調査の様子】

■ 茶 和紅茶の製造と官能評価

岐阜大学、(有)サポートいび及び岐阜県では、産学官連携で害虫加害茶葉を利用し密香発揚を目指した和紅茶の生産に取り組んでいる。10月6日に秋冬番茶による試験製造と官能評価を農業普及課の指導で行った。

官能評価で優れた製品は、12月2～3日に岐阜市で開催される「地紅茶サミット in ぎふ」でポスター発表するとともに試験販売される予定である。

農業普及課は引き続き活動支援を行っていく。



【官能評価の様子】

■ 茶 有機栽培実証ほ場現地検討会

10月5日、揖斐地区有機農業プロジェクトチーム会議を開催し、春日地区の有機農業実践茶園及び農業普及課が設置している実証ほ(茶園)を視察し、生育状況等について意見交換を行った。実証ほ場では無農薬・無肥料栽培1年目の調査データを確認し、収量や茶成分の調査結果を共有した。プロジェクトチームでは茶の慣行栽培から有機栽培への移行に向けた調査を引き続き行い、有機栽培の可能性について検討していく。



【現地視察の様子】

■ かき 期待の品種「麗玉」初出荷

10月13日、大野町かき振興会主催の「麗玉」出荷目揃え会が開催され、14日に初出荷された。

「麗玉」は、農研機構で開発された新品種で、着色が良く、丸みを帯びた形が特徴で、甘みとサクサクした食感が楽しめる。また、障害果の発生が少なく、正品率が高いことも特徴で、収穫・家庭選果作業の軽労化も期待されている。

現在約60名の会員が「麗玉」を導入しており、農業普及課は生育状況、栽培管理方法、果実の品質調査等の情報提供を行い栽培技術向上に向け支援している。



【目揃え会の様子】